

委員会報告書

委員会名	平成 27 年度 第 4 回 生産技術委員会
開催日時	平成 27 年 11 月 12 日 (木) 15 : 00~18 : 30
開催場所	早稲田大学 西早稲田キャンパス 62 号館 1 階大会議室
出席者 (敬称略)	大下委員長、松原副委員長、濱本、長岡、羽賀、大西、松田 (広島代理として)、林田、太田、栗原、河合、牧野 (内田代理として)、寺本・田中 (運営幹事) 以上 27 名中 14 名
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員交代 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石油資源開発 羽賀 健介 様 (峯岸委員と交代) 2. 幹事会報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 協会誌印刷所の選定についての検討が継続中。 3. 理事会報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石油技術協会賞に「奨励賞」と「特別賞」を新設する。それらの推薦・選考ルートその他の詳細については検討を続ける。 4. シンポジウム原稿の査読状況について <ul style="list-style-type: none"> ・ 全 11 件の査読が完了。 ・ 11 月 9 日 (月) 編集委員会に運営幹事が出席。開発・生産部門のシンポジウム原稿の進捗状況につき説明し、全 11 件が受理された。 5. 平成 28 年度春季講演会シンポジウムテーマについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 「低油価環境」を念頭に置いて「操業最適化」に関する講演題材があるかどうかを各社・各大学で調査したところ、6 社・1 大学より 16 件の題材案が挙げられた。 ・ 1 社からは最大 2 件までの講演がふさわしいと考えられるため、複数の題材案を提示した企業は、講演題材の優先順位を決定する。 ・ シンポジウムテーマ名についてはメールでアンケートをとり、次回委員会にて決定する。 ・ 議論の中で出された意見は下記の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「操業最適化」の背景に「低油価環境」があるが、それを強調せずに低コストで行なえるアクション・最適化についての題材を集められれば、「低油価」という後ろ向きなイメージが前面に出ることなく、技術にフォーカスしたシンポジウムになるのではないか。 ✓ シンポジウム開会の挨拶にて、「E&P 業界は技術力・操業最適化で『低油価環境』にも対応していける」という趣旨の導入があれば、各講演者も講演しやすく、聴衆も理解しやすいのではないか。 ✓ 現時点で挙げられた講演題材案の内容は、オペレーション、IOR/EOR、研究開発・実証試験に関するものが多い。「操業最適化」のテーマであまりにも広範にわたる題材が集まってしまうと再来年度以降のテーマ選定に支障をきたす懸念があったが、現時点で集まった題材案は数も多く、対象も比較的限定的で、問題は無さそうである。

	<p>6. 次回の委員会開催場所について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第5回：平成27年12月4日(金) 14:30～ @京都大学・ 第6回：平成28年1月14日(木) 15:30～ @伊藤忠石油開発・ 第7回：平成28年3月3日(木) 15:30～ @石油資源開発 <p>7. 話題提供</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大学からの研究紹介<ul style="list-style-type: none">✓ 環境資源工学科および石油工学研究室の現況(栗原正典教授)✓ 流動シミュレータと岩石力学シミュレータの統合手法の開発(長澤亮、修士2年、栗原研究室)✓ 低塩分濃度水攻法による原油回収原理の調査と実験による検証(松本健太郎、修士2年、栗原研究室)・ 生産技術委員による活動紹介<ul style="list-style-type: none">✓ 我が国の石油・天然ガス開発業界の活動紹介(大下委員長、ほか生産技術委員より9件) <p>※大学側より約30名が参加</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---